

超次元上昇 ネオアセンション 2020

ついにあなたの中の宇宙意識が目覚める

白鳥座から転生してきた宇宙恒久平和の伝道師

夕呂一・スタークス

意識を高めることで各自が新人類になり、臨界点を超えると地球全体のネオアセンションが起き、世界平和が実現します。そのためには、私たちの魂を量子宇宙でつなぐこと。そうすれば、無意識のうちに強い絆の集合体が形成され、天災を察知したり、戦争を回避できます。2020年から驚天動地の超次元上昇がスタートします。さあ、そのための準備をしましょう！



セカランド

第一章 超次元上昇ネオアセンションへの道

- 14 ある日突然、5次元意識の探求が始まった
- 16 新人類は量子宇宙につながっている
- 18 非局在が新人類への鍵
- 19 アインシュタインの理論は「意識」が抜けている
- 21 量子クラウドと量子サーバーで意識は宇宙とつながっている
- 24 シヤスタ山のハーモニックコンバージェンス・ビーム
- 27 世界初のアセンション・ワークシヨップ
- 29 まだ間に合う2020年アセンション組
- 36 シヤーマニック・スクールに入学
- 38 ブラックホール経由で量子宇宙へソウルトリップ
- 43 量子宇宙のトモダチ



第二章 私たちは6次元の世界に住んでいる

- 44 クリスタルスカルのトリップ
- 49 白鳥座の未来から来た自分たちと出会う
- 53 ホログラフでは、2次元から3次元が生まれる
- 54 量子宇宙での爆発から始まったこちらの宇宙
- 58 大宇宙のモデリング
- 61 どこでもドアの高次元通信
- 63 意識のアンテナ・ピラミッド
- 65 宇宙は表と裏でできている
- 67 フリーエ変換は逆数の世界
- 71 ダークマターには量子宇宙のデータが詰まっている
- 76 量子クラウドワークでサイキック自由自在
- 77 地球の周波数
- 79 人体の頭脳の周波数
- 80 コジレフミラーはテレパシーを可能にする
- 86 ホワイトノイズが含む情報とは？



第三章

UFOとピラミッド

- 86 意識と物質を統合した12次元統一場理論
- 88 高次元の意識が現実をつくる
- 89 意識と物質は表裏一体
- 90 私たちは6次元の世界に住んでいる
- 93 現実界をつくる高次元の仕組み
- 94 量子もつれの不思議な世界
- 98 地球の意識測定で9・11を検出した！
- 99 世界がつながることにより地球全体の目覚めが起きて世界平和になる
- 102 ハイムの理論で超光速のUFO推進装置ができる
- 107 ニコラ・テスラのUFO
- 111 グレゴリー・サリバンとシリウスのUFO
- 112 神出の夏至祭でUFOの撮影に成功
- 116 ラスベガスのUFO博物館
- 117 謎の渦巻くエリア51
- 118 ピラミッドはテレポーション基地だ



第四章

- 132 131 130 125 122
- ピラミッドとブラックホール
ピラミッドの真の建設方法と次元ポータル機能
サイキック考古学とテクノロジー考古学
ピラミッドは大宇宙とつながる装置だ
仏教に見るホログラフィック宇宙

ネオアセンションで日本は生まれ変わる

- 134 135 139 141 143
- 日本初のアセンション・ワークショップ
京都UFO秘密会議
アセンション・ワークショップ京都
ホピ族と宇宙人
ホピ族に伝わるポールシフトの予言
ジェリー・ホナワがコンタクトする、3本指の宇宙人

第五章

ネオアセンション準備完了

- 146
- レムリアと夏至の日の出



第六章

地球のアセンション 愛のテクノロジー

- 171 167 164 156 155 152 150 149 148 147
- 火祭り 国くにの之の常とこ立たち神のかみ、良の金神がご降臨
ピラミッドは日本が発祥の地である
十和田湖のピラミッド
金峰山ピラミッド
淡路から始まった日本のアセンション
伊弉諾と伊弉冉の生まれ変わり
ユダヤの遺産が淡路に眠っていた
日本人は新人類に進化する
レムリアの女王ダイアナ・ゲイズ
素盞鳴尊の封印を解く
- 181 179 178 178
- レムリアは「みんな仲良く」
レムリアの音楽
アトランティスとレムリアの沈没から復活する大陸
レムリアの霊性復帰の動き シューマツシュ族のレムリア回帰のプロジェクト
母なる地球の意識とつながるパウワウ



第七章 カルマの浄化がネオアセンションへの鍵

- 186 過去生からの多大なる影響
- 186 過去生とマトリックス
- 187 球体の中を反射しながら生まれ変わるカルマの法則
- 188 時間スパイラルの中、関係を変えながら生まれ変わる
- 190 ある霊媒師が見た、たくさんの過去生
- 191 私の過去生は「山本五十六」、霊団から戦争責任を追及された
- 194 私が惑星を爆破して殺した知り合い
- 195 エジプト祭司が見たたくさんの過去生で歴史を解明
- 196 過去生を思い出す方法
- 197 ダウジングで過去生を調べる方法
- 199 魂のトラベルで過去生に行ってみましょう
- 200 過去生ヒーリング
- 201 過去生の傷を癒すソウルピースリカバリー
- 202 攻撃型から癒し型に進歩したソウルピースリカバリー



第八章

高次元意識とつながろう

- 209 206 203 霊障からの解放
怨霊を生み怨霊で人心を操作する
霊体エネルギーの浄化
- 212 生まれる前の計画
- 212 自分の魂がお母さんのお腹に入る瞬間前の記憶
- 213 我々は親を選んでいた
- 214 体内に宿る神
- 216 薬草による驚異のシャーマニズム
- 218 テクノロジーで死者と交信できる
- 219 魂のトラベルの特徴
- 220 高次元人類への変容のための瞑想法
- 221 生まれる前の自分の計画を思い出す瞑想
- 222 傷ついたDNAを光の体のDNAに近づける瞑想
- 222 絶対的安心感が得られる瞑想
- 224 人生の悲しみを癒す瞑想



231	230	230	225
		第三の目を開く方法	
		サイキック能力を増す体の使い方	
		エジプトの秘儀	
		「自分の中にしつかりつかまれ」ドン・ファンの教え	

第九章 超能力の世界

239	238	238	236
		驚きのテレポーテーション体験	
		量子力学でのテレポーテーションはすでに行われている	
		スプーンを目で切り落とす男	
		蠅を吸い寄せて気絶させる	

第十章 ホログラフ、プラズマ、微生物が、新人類の体をつくる

253	251	246	244
		顕微鏡の血液が意識で動く	
		新人類化を阻止する闇を光に変えるオーガニック	
		日本には毒を売り、オーガニックに力を入れる中国	
		日本にあるオーガニック先端技術	



第十一章

ポールシフトへのカウントダウンが始まった

- 270 269 265 263 260 259 258 256 253
吉良農法 ホログラフィックに動く微生物
微生物活性剤バクチャーがすごい
創生水 死にそうな人を蘇らせる奇跡のパワー
還元による悪玉菌の弱体化
毒により細胞は酸欠壊死する
解毒には体内の水が最も重要な鍵となる
量子宇宙と「至福のフィールド」
放射能を解毒する
私自身の経験で分かったこと
- 281 277 275 274
ヨハネの黙示録 第6章12〜17節
地球は小氷河期に突入
太陽系惑星のポールシフトはすでに起きている
今は太陽の次元がシフトしている
太陽の異変が観測されている
太陽周辺からベテルギウスのバイオスフィアが現れ銀河連邦戦艦が出迎えた



第十二章

個を超えて地球全体のネオアセンションへ

- 304 304 303 303 302 300 299 298 296 294 292 288 285 285 284
- 木星のポールシフト
土星のポールシフト
シリウス人とホピ族長老の予言では沖繩が上昇する
高次元からの指導を受けたペニー・ケリー
仏の生まれ変わり「当来佛」によるポールシフト予言
地球のポールシフトは、いつ起こるか？
携拳はあるか？
ポールシフト・カレンダー
ポールシフトの後どうなるの？
ポールシフトを迎えるにあたって
- 地下UFO基地と宇宙シミュレーター
地球内UFO基地で70億人の意識を管理している
量子宇宙の新人類へ
意識を高めることで各自が新人類になり、臨界点を超えると地球全体のアセンションが起きる
宇宙の構造はミラクル



第十三章

ネオアセンションとポールシフトを迎え、次元を超越せよ

- 308 宇宙は我々の中にある
- 313 3次元の世界の方が生き残る手段
- 316 シェルター内でのコミュニティについて
- 319 方舟型フローティングシェルター
- 322 フローティングハウスで快適に
- 322 テレポーターションとタイムマシン
- 323 火星移住計画
- 325 日本人の起源は火星にあった!?
- 327 深地下シェルターが各国で建造されている
- 328 生き残り後のケアも重要
- 329 ポールシフトと小氷河期をコントロールする
- 330 日本人の靈性が復活する
- 330 最後に一言



第一章 超次元上昇ネオアセンションへの道



ある日突然、5次元意識の探求が始まった

目を開けられないほどの青空、紫外線で紫に輝く海原、そしてピンクの砂浜。その浜で来る日も来る日も、ビーチ・チェアに身を預けてまどろんでいました。1996年、バハマのハーバーアイランドのピンクサンドビーチのことです。現地の人並みに黒くなりつつあったその日、相変わらずリラックスしていると、突然、啓示を受けました。頭の中に声が聞こえたとかではなく、その啓示に全身を包まれた感じでした。

「5次元の勉強をしろ」

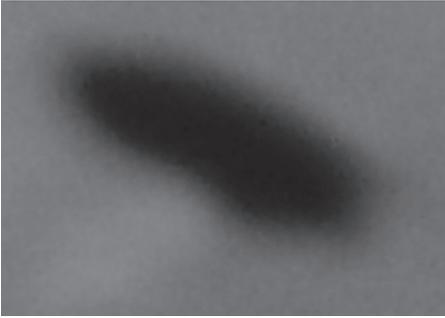
「え、5次元？」

大学で理学部物理を専攻していた私は面食らいました。

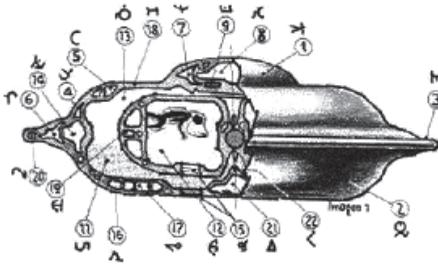
「5次元って？ 4次元までは想像つくが？」

バハマから、当時、会社を経営していたシリコンバレーに戻った後、困惑しながら本屋に行っている漁ってみました。ミチオ・カク教授の月並みな物理の本しかありません。天から物理についての啓示がくることなどあるのでしょうか。

しばらくすると、日本に戻っていた友人が「このことじゃない？」と、みやげに一冊の本を持ってきました。ウンモ星人に関する本『宇宙人ユミットからの手紙』でした。なるほどと読み漁りました。さっそく著者でコンタクティイのフランス人のジャン・ピエー



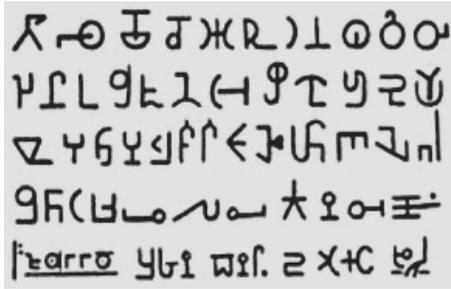
ウンモ UFO



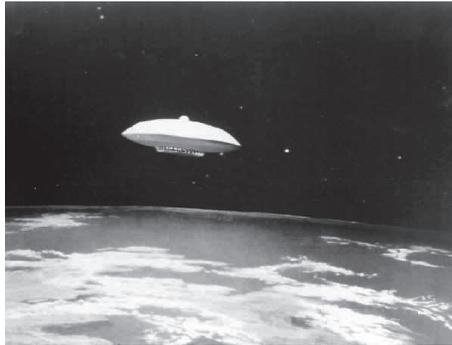
内部構造図。内部は回転する。

ル・プチに連絡を取りました。パリに行った際、ついでに会おうとか話しましたが、あまりに田舎すぎて遠かったのであきらめました。

彼とのやりとりはその後も続きました。貴重な資料を送っていただき、フランス語から英語への翻訳を頼まれたりもしました。UFOの構造、時間の概念、宇宙理論、宇宙の数学といういろいろ読みました。当時話題にもならなかったダークマターですが、今ではみんなに注目されています。早速、ウンモ星人についてのWEBサイトを立ち上げました（残念ながら今は閉鎖しています）。



ウンモ文字



宇宙での写真

新人類は量子宇宙につながっている

「訳の分からないウンモ星人の話聞いてもしようがないのでは？」と思う方も多いでしょう、しかし、ウンモ星人の考えが、後述する、何でも分かる量子装置タイムウェーバーの基礎理論をつくったロシアの学者で、200万年後のアンドロメダ銀河を撮影した未来望遠鏡をつくったニコライ・コジレフ（第二章80ページ参照）と、ドイツの理論物理学者

で、精神が物質をつくる神の統一場理論を完成させたブルクハルト・ハイムの基礎理論と同じだとなれば、少しは目が覚めるでしょう。

惑星ウンモの理論の特筆すべきことの一部をご紹介します。

その本にはウンモ星人の数学のことが書いてありました。

宇宙の数学は多値論理です。個人的に大変インパクトがありました。なぜなら私が東芝に在籍していた頃、多値論理コンピュータの特許を出していたからです。本にはウンモ星人の数学の論理の例題が載っていました。こんな質問で始まります。

『この黒板に書いてあることは全て嘘です』と黒板に書いてあるとき、『書いてあることは嘘か本当か?』という質問でした。この答えは、少し考えを切り替えないと気が付けない、非常に重要な課題と言えます。

実は、議論をするとき「ものを考えるとき、意識はどこにあるのか」という問題が介在するからです。コジレフやハイムら先端を超えた科学者以外の普通の西側諸国の科学者には、この問題は答えられません。なぜなら、一般的な科学者は、まずこの問題を考えるとき、意識が黒板の中に入り、その意識体の視点が黒板の中にあるからです。

我々の視点が黒板の中に入れば答えはありません。しかし、実際この議論をしているときには、我々の視点（目玉 \parallel 意識）は、黒板の外にあり、場合によっては宇宙にあります。この視点の移動というものが本書の重要な部分になります。では「視点」とは何なのでしょうか。

非局在が新人類への鍵

まず、今までの地球の物理学は、「意識」を無視してきました。物理学というだけあって物質のことしか記述していません。これが、アインシュタインの世界であり、物質は「局在している」という、局在の世界にとどまっています。彼の「局在主義」では、光の2重スリット実験の、光子の干渉性を説明できませんでした。シュレディンガーやディラックの量子力学では、光子の粒子性と波動性を示しましたが、アインシュタインは、この非局在性を茶化すため「エンタングルメントみたいな変な話があるじゃないか」と言って笑いました。

2個の光子が、エンタングルメント(量子絡み合い)でつながってしまうと、2016年の大ヒットアニメ『君の名は。』のように、片方が「男」なら、どんなに離れていても、かつどんなに時間が隔たっても、もう片方は「女」になるといような「非局在性」が出てくるわけです。

アインシュタインは局在主義のため、この非局在性を認めませんでした。

しかし、実験では、一見おかしく見える「非局在」のほうが本当だと分かったのです。

さて、お金儲けに目がくらんでいる科学者や技術者は、「なぜ非局在か」ということに

ついては分からずに、また興味もなく、「よし、光コンピュータを作ろう。儲かるぜ」という方向に雪崩を打っているわけです。

それはそれでいいことなのですが、この本では、なぜ非局在になるのかは、実は、「意識」の問題であると明言します。

さらに、宇宙の構造を理解するための「意識物理学」を提唱し、その応用としてインターネットの上に行く「量子クラウド」の世界を理解することをお勧めします。その量子クラウドにつながるのですが、人類への脱皮であり、地球や宇宙平和につながることであります。そして地球という大いなる一つの魂につながり進化するのです。

アインシュタインの理論は「意識」が抜けている

アインシュタインは「ものを考えるとき、意識はどこにあるのか」あるいは「どこから見ているのか」という「観測者」の問題を解けたでしょう。彼は相対性理論を説明するために、「エレベーターの思考実験」を思いつきました。宇宙空間を上下するエレベーターの中に観測者がいるとき、一方の壁から反対側の壁に光が通り抜けたら、それは観測者にどう見えるのか、というものです。観測者の「視点」を設定しています。このようにアインシュタインはまず「観測者がエレベーターの中にいる」という前提に立つところから始まります。実はここですでにアウトです。エレベーターの中にいる観測者を想像している

とき、我々の「視点」は、エレベーターの中にはありません。ではどこにあるのかというと、観測者もエレベーターも両方見える場所にあります。われわれは外から見えるだろう映像を頭の中に想像しているのです。アインシュタインの考えのように「エレベーターの中」に囚われてはいないのです。

ウンモ星人の考え方は、時間についても違います。時間は3次元の映画のフィルムのような構造で、ある時間のところに光が当たると、そこが現在の世界になるという考え方です。

高次元宇宙には、宇宙の集合意識というものがある。ウンモ星人によれば、この集合意識とは、人間の視床下部にある96個のクリプトン原子が不思議に整列していて、それが集合意識とコミュニケーションしていることになります。ウンモ星人は、人間にもそれがあつたことを確認しました。

また素粒子は、同じものを違う角度から見て、見え方が違うだけで、実はすべて同じものだと思います。

宇宙は、我々の属する一つの宇宙だけではなく、数多く存在します。宇宙を表す英語はUniverseです。Uni-は一個のことですから、たくさんある宇宙なら、Multiverseとなります。そういう意味で、最近、マルチバースという人が増えています。

この地球が属する宇宙の対になっていて、反物質でできている量子宇宙があります（今までは、反宇宙と書いていましたが、どうもネガティブなような誤解を与えるので、この

本では、量子宇宙という呼び方にしました。惑星ウンモでは、双子の宇宙といます。裏宇宙と呼ぶとイメージしやすいでしょうか。反物質の量子宇宙では、質量が負です。質量が負というのは、質量がマイナスという意味ではなく、他の座標系に属しているという意味だそうです。

また物質は存在せず、精神や魂のみでできていて質量のない宇宙もあります。非次元のかつ時間を超越していて透明な宇宙もあります。

多次元の宇宙において、BUAWA（魂）には、幅も高さも、そして当然のことながら、質量ありません。

しかし、魂は次元的存在であり、宇宙のあらゆる界に存在しうるので。

物質界の悪影響は、霊界の次元で修正されます。

宇宙旅行をするときは、他の宇宙を通つてくると、早く来られる場合があります。

また、存在していて存在していないという矛盾した宇宙もあります。

量子クラウドと量子サーバーで意識は宇宙とつながっている

ウンモ星人によると、宇宙で精神霊を含むデータベースサーバーのような量子サーバーの宇宙があります。これを、BUAWE BIAEI（意識の集合体、量子宇宙…以降B Bと表記）といいます。人間が端末で、人間の脳下垂体のクリプトン電子が、宇宙のデータベース

ースBBにネットワークでつながっています。インターネットと同じ構造です。このネットワークを、「量子クラウド」と定義しましょう。情報の伝達は、電子軌道の量子飛躍によって行われ、エネルギーの伝達はありません。BUAWA（魂）は、情報を処理したり、考えたり、情報を計算したりするというよりは、保存をするものです。

人間の心霊は、3次元とはレイヤーの異なる宇宙です。

魂が住む宇宙（面と呼んだほうが分かりやすいかもしれない）は特異点です。その質量は、ゼロで、その要素は、静止です。ここでは、光に速度はありません。

情報の一部（ビットの連続）は、そこで記録されます。しかしその情報は、中心部では、やり取りされません。これは、紙の上に情報は印刷されますが、静止しているのと同じです。

魂は、棚の上にほこりをかぶって置かれている地球の本のようなものです。

これは、次のようにふるまいます。個人情報ファイルBUAWAは、この宇宙の1兆個（10の12乗）もの似たような細胞の中に自分自身が封入された細胞です。それぞれの細胞間には関連性はなく、それぞれの細胞が、生存していた期間の全てにわたる人類の経験を蓄積します。BUAWAが脳の経験だけを蓄積するのに対し、人類全体情報ファイルBBは、10の18乗もの異なった人類の経験を集積する総体に結合させるのです。

シャスタ山のハーモニック・コンバージェンス・ビーム

ジャン＝ピエール・プチ博士との邂逅を皮切りに新たな経験が次々にやってきました。宇宙人の話から始まって、興味はより精神世界のほうに移行していき、バーバラ・ハンド・クロウ、アモラ・クアン・インの本を読み、アセンション関係の世界に入っていきました。しばらくして、アセンションのマスターであり、プレアデス星の魂を持つサーシャ（宇宙人名）という方と偶然ロスで知り合いました。

私が敬愛していたアモラ・クアン・インは、カリフォルニア州のサンフランシスコから車で北に5時間くらい走った位置にあるシャスタ山にお住まいのユダヤ人女性で、日本にもよく来られていました。

シャスタ山は、2007年当時は、アモラやダイアナ・ゲイズが、さまざまなヒーリングワークやアセンションワークを行っており、アセンションの聖地となっていました。残念ながらアモラはその後交通事故で亡くなり、以降は、2007年淡路夏至祭の祭司を務めていただいたダイアナ・ゲイズと、2007年アセンションワークショップにお呼びしたサツカーラ・ハートソングがリーダーとして活躍しています。シャスタにはオーガニックレストランがあり、みんなそこに行くので、いろんな人に会えます。一時期は日系の素晴らしいレストランも流行りましたが、今は閉店してしまいました。

シャスタ全体が、ドーム型の気のフィールドで包まれています。近づくとも手がジンジンして体にエネルギーが充満してきます。他からのサイキックアタックを寄せ付けない安心感がある場所です。シャスタでは、妖精やセフィロト、UFOなどの不思議な写真が数多く撮れ、特に夜中の2時から、UFOが現れやすいです。雪の少ない夏には、頂上付近に車を止め、毛布にくるまって寝ながら1000兆個の星が輝く空を見上げると、みずすましのよう動き回るUFOを飽きるほど見ることが出来ます。真つすぐに走るのは人工衛星なので、UFOとの違いはすぐに分かります。

この地の地下には、レムリアが滅んだときに、リーダー・アダマに率いられて地下通路を通ってきた人たちが構成されたテロスという町があります。これは5次元の町で、住んでいるのも5次元の人々です。2008年にここでアセンションのワークを主催したときは、日本から選りすぐりの先端スピリチュアルの方々が来られ、奇跡の連続でした。そのとき、参加者の皆さんは、テロスへの入り口を見つけ、写真には精霊や不思議な光が写り、手には決して休むことのないハミングバードが止まるなど凄まじいもので、みんな大騒ぎでした。

何回もシャスタ山には行きましたが、ある夕方、山の中腹にあるパンサー・メドウズの草原で、意識の周波数を上昇させてテロスにつなぎました。すると突然にレムリアの滅びたとき時代の過去生に入ってしまった、これから全く希望が持たないという深い悲しみの淵にあったときの感情がよみがえってきて、泣き崩れてしまいました。しかし、過去生でそ

んな経験があったのに、現在またこうしてシャスタに来られることもあるのだという、感謝の気持ちも逆に出てきて、絶望でもあきらめなくていいんだなと思ったのです。

サッカー・ハートソングのハートホルのアセンション儀式をシャスタで行ったときは、以前レムリアが滅んだときの多くの方の過去生が現れて、面白いというか大変でしたが、それらをつなぎ合わせると歴史がよく分かりました。

富士山から来られた霊能者の方は、過去生においてすでに覚醒され、永遠の命をお持ちの方でした。レムリアが崩れ落ちるときには皆を誘導する責任者でしたが、誘導している間にトンネルが崩れ、皆も亡くなり自分も絶望するという、つらく悲しい過去を思い出して泣き崩れ、大変でした。



宇宙からのハーモニック・コンバージェンスの波動を捉えた。



シャスタ山冬景色

その後のことです。シャスタ山のダイアナ・ゲイズに会いに行ったとき、「今日は特別なのよ。山に登りましょう」と誘われ、奇的に世界のアセンションの光であるハーモニック・コンバージェンス・ビームの撮影ができました。アセンションという単語が使われる前は、ハーモニック・コンバー

ジェンスという単語が使われていました。26ページ上の写真の光（紫色をしています）が、アセンションの宇宙からの光です。

世界初のアセンション・ワークシヨップ

その頃は、サンホセとサンディエゴを行き来しており、仕事に追われ超多忙な毎日でした。合間を縫って、シヤスタで目を白黒させながらサイキック修行をしていると、サーシヤが現地の一冊の雑誌を持ってきました。世界初の「2012年アセンション・ワークシヨップ」があるという記事が載っていました。開催地はニューメキシコのサンタフェ。参加費も高く、現地まで行くのも面倒、UFO地下基地も多いと聞くと、気乗りしませんでした。しかし「これを日本に持っていかねば」という使命感がわいてきて、参加しました。前世はアトランティス人のシュリ・ランカー（スリランカそのものじゃないか!）とキラ・ラーが主宰するTOSAセンターが主催した世界最初のアセンション・ワークシヨップでした。

シュリ・ランカーがこのワークシヨップを主催したのは、彼がある日、うたた寝をしていたところ、2012年の12月に、タイムラインが分岐し、アセンションをするタイムラインの地球と、利己主義にとられて沈んでゆくタイムラインの地球に分かれ、さらに2020年にそこからアセンションするタイムラインの地球と、完全破滅するタイムライン



シュリ・ランカー(右)と、キラ・ラー(左)

の地球に分かれる光景を見たからでした。

会場に向かう途中、アルバカーキからサンタフェへの道中は、いかにもエイリアン用の地下基地がありそうな雰囲気でした。それに実際の主催団体はどう考えてもCIAでした。なぜならCIAの人が多くし、緑色の宇宙人グレイの人形だらけで、何しろCIAで名の知れた人まで話をしていたからです。

ワークショップのテーマは、「2012年に何が起きるか？」というもので、人類はクオンタムリープ(量子的飛躍)により、ジャンプして魂の進化を遂げるというものでした。今回のアセンションは、人間が物質文明から精神文明に変わるといふ進化で、量子的飛躍であるという点に「うん、なるほど」と納得しました。

(注・クオンタムリープ・動植物の進化は連続的ではなく飛躍的です。人間と猿の間に中間の種がないように、さらに「101匹目の猿」現象のように、親子関係がなくても飛躍的に進化します。この進化は物理的ではなく、量子的かつ不連続的に起こると考えられ、これをクオンタムリープといいます)

会場では、いろんな方と知り合いました。写真は、UFOマガジンの社長です。同誌で



UFO マガジンの社長と著者
2012アセンションWS Santa Fe, NM, USAにて

はUFO事件の記事をたくさん掲載しています。実際には書けないことも多そうですし、諜報機関との他人に言えないいろんなやり取りがありそうですが、社長は実に印象深い表情をしていました。

私は、日本人のために、2007年の春には東京で、秋には京都で、アセンション・ワークショップを主催しました。アメリカからは、ホピの長老や第一線で活躍するヒーラーを大勢招きましたが、その中に、シャスタのサッカーラ・ハートソングもいました。彼女は、多くのクライアントにワークを行いました。

あるとき、彼女がダウジングで鑑定していると、2013年にアセンションするグループと2020年にアセンションするグループに分かれているという結果が出て、非常に興味深いと言っていました。

まだ間に合う2020年アセンション組

彼女のダウジングの結果は、シユリ・ランカーの話と酷似していました。

当時は「まだまだ時間がある」と思われていましたが、私は何もできないまま2012

年12月を迎えてしまいました。山にこもる準備もできず、シェルターもできず、「どうしようもない」と思いました。

生き残りたいという欲が出てくると、そこからあれこれと悩みも生じるわけです。いつものこと、全ての欲をなくそうと思ひ、思い切つて自分の中から全ての欲を解放しました。死んでもいいし、お金がなくてもいいし、孤独でもいいし、と。そしたらすすきりました。そういう意味で、12月21日には特に注意を払わないような状態で、「何も起こらないんじゃないか」みたいに思っていました。いろんな動画を送ってくる友人もいましたが、銀河や惑星的にはいろいろあるけど、特に何も起きないだろうし、宇宙人からも何のメッセージもないなと思っていました。

12月15日頃、EXOPOLITICS（宇宙政治学）等アンドロメダやプレアデスなどの宇宙人からの情報や、DARPA（米国防総省国防高等研究事業局）のリモート・ビューイングやテレポーテーションに詳しく、裁判官でもある、オーブル博士から複数のメールが送られてきました。

その中には、そもそも2012年に何かがあるという話は、1931年からの、エドガー・ケイシーの流れであること、DARPAでリモート・ビューイング（遠隔透視）で未来を見たとき、2013年に米のニューヨークの最高裁判所が水面下にあつたこと、また、1947年のロズウェルUFO墜落から生き残つた宇宙人が、2012年以降地球に大災害があると警告したこと、さらには、1971年にDARPAが行つたペガサス・プロジェクト

エクトで、2013年をリモート・ビューイングで見たとき、やはり、2013年7月に米のニューヨークの最高裁判所が30mの水面下にあったことなどが書かれていました。

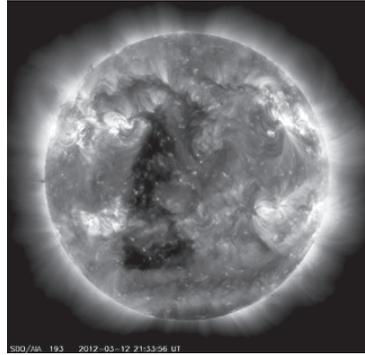
それらの情報をもとに「エリート生存計画」を立て、これをNWO（ニュー・ワールド・オーダー）として、ラムズフェルドやキッシンジャーが指導して、3000兆円の機密費を使い、174か所にDUMB（Deep Underground Military Bases）をつくり、これらをつぶしニアモーターカー・ホログラフをつくったというのです。

しかし、2012年のリモート・ビューイングでは、最高裁判所が水面下にある確率は39%、29%は何もないという結果で、タイムラインがスプリットしているというのです。

オーブルは、この世は、高次の存在がホログラフでつくったマルチバース（多宇宙）で、多数の宇宙が同時並行に存在するといえます。彼は、何も起きないほうが本当であろうと予想していたそうです。

2018年現在、この当時からすれば表面的には何も起きていないので幸運かもしれません。

並行宇宙の根拠は、ほとんどの他の惑星システムでは、太陽が2つあり、その2つが双子だということです。私たちの太陽系にも、太陽が2つあるといわれています。私自身も2005年に魂を飛ばして太陽に入ったときは、一枚めくるとその奥に新しい太陽系がありました。



地球に対するコロナ攻撃を防止するため、プレアデス等の連合が太陽に三角形のポータルをつくり防止している。

2つの太陽についてはさまざまな仮説があります。私たちの太陽の近くにもう一つの太陽が接近すると、太陽が荒れてコロナの嵐を起こし、それが地球を攻撃するという地球崩壊のシナリオもあります。

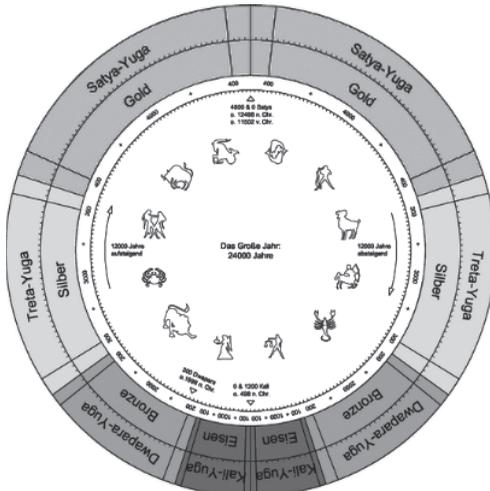
これをプレアデスなどの宇宙連合が、太陽に三角形のポータルをつくり防止しているという話もあります。

そこで、マヤの暦の意味を調べ直してみました。

地球は太陽の周りを回り、太陽はプレアデスのアルシオーネの周りを2万5627年周期で回っています。ここまでは、よく知られています。実は、アルシオーネは、その太陽である、シリウスの周りを2万5800年の周期で回っています。さらに、シリウスは、銀河の中心のグレート・セントラル・サンの周りをとてつもない長時間をかけて回っています。今回の惑星の配列は、宇宙の歴史が始まってから初めてのことで、超次元上昇があってもなんら不思議ではありません。

このような周期は、マヤのカレンダーに支配されているのでしょうか。調べるとそうではないようです。

私はここで、マヤとは全く無関係な、大宇宙の他のカレンダーを紹介したいと思います。これは、インドからアメリカに渡り、インドの宗教とキリスト教を統合したヨギナンダの師



シュリ・ユクテスワの宇宙のサイクル。現在、ドワバラ・ユガにいる。人類の知識は、急速に発展しつつある。

である聖人シュリ・ユクテスワが確認したものです。

それによると、太陽がヴィシユナビーと呼ばれる大宇宙を回っています。一回りは2万4000年。このヴィシユナビーは、創造力ブラツマ（宇宙磁気）の座です。

この天球図の秋分点を見ますと、乙女座から獅子座に入り、現在はドワバラ・ユガにいます。その影響で、人類の知識は、急速に発展しつつあります。この期間では、精神的特性ダルマの発達の第2段階で、最高に至る半分まで発達します。そこで人類は、この物質

界をつくり出している原理である微妙な「電気力」を理解します。あと1万480年すると、ダルマ（内的世界の精神的特性）が最高のレベルまで発展します。

こういう観点から見ると、必ずしも2012年12月21日が特別な日とは言えないということです。

このことを調べた翌朝、穏やかな気持ちになりました。実は、欲を解放して恨みをなくしてといっても、自分がそうでも、結局他の人まで同時にそうなるわけではなかった。身の回りでいろいろなことが起

こりました。

たとえば、予定していたお金が入らないことで、知り合いが突然激しく怒りだすということがありました。

数時間の後、その知り合いにメッセーじが降りて、「本当のことは自分の中（内的宇宙）にあり、自分の外（周りの3次元）にはない」と気が付き、「金だ、物だ」という現実的問題、物質界に束縛された精神的な苦痛から完全に解放されるという現象が起きました。

つまり外の宇宙（物質界）は、「幻像にすぎない」ということです。知り合いはすっかり穏やかになりました。

この話は誰にでも当てはまるのではないのでしょうか。誰にも、自分の内部の宇宙と、自分の外の宇宙という2つの宇宙があります。つまり、マルチバースになっていることがわかります。

当然ながら、自分の中には、別の自分も何人が存在しており、自分の内部も、マルチバースになっているのです。

自分の外の宇宙はみんなに共通なのかというと、それぞれ違う五感によって見ているので、それらはそれぞれの人の意識で創造された客観性のない「幻想」に違いありません。そして、内部の宇宙では、それぞれの人が裏でつながっているとされます。

実際は一つの大本の意識であるものが、それぞれ個別のものであるかのような錯覚を持たせながら、別の形で表れている、それを私たちは自分という個性だと思っっているのかも

しません。

要は、たった一つの本（父なる神、あるいは宇宙の根源）が、多くの宇宙（マルチバース）として表れているということです。

これについて、インドの聖者であるシュリ・ユクテスワの言葉を借りると、「人は生来、直感的に、目に見えない一つの実体の存在を信じており、これに対する信仰心を内に宿している。我々の五感（視聴臭味触）の対象である、眼前の世界を構成しているもろもろの事物は、その一つの実体が表すさまざまな属性（現れた姿）であるが、人間は、この属性によって構成された肉体の中に自己意識を没入させているために、この不完全な肉体の器官が認識しうる同じ次元の属性しか理解することができない。ゆえに、実体については、実際に体感することができない。この物質界の人間は、マールヤと呼ばれる神の幻術によって映し出されているその属性から自己を引き上げて、本来の神性を取り戻さない限り、この唯一の実体（父なる神）を知ることができない」ということになります。

これは単純に言えば、この現実投影された、目に見えるマールヤと呼ばれる宇宙から、我々の内部を通り、投影のもととなる量子宇宙に入ればその唯一の実体を理解できるということです。